



実践講習の後は、グループに分かれ受講者自らが木育プログラムの企画立案に挑戦しました！

芋煮の材料を自然物で見立てる「おままごと」など、地域の文化を取り込んだ山形ならではのオリジナルなプログラムが出来上がりました。



受講者の声

「木育について理解が深まり、実習を通してイメージがつかめました。」「子どもの頃に戻って脳を活性化させることができました。とても楽しい一日でした。」「とてもわかりやすかったです。おままごとのプログラムは大人でもこんなに楽しかったのだから、子どもたちならどんな面白いことをやってみせてくれるのかと考えただけでも楽しそうです。」



むらやま版・木育 特集

～木育インストラクター養成講座～

いま、なぜ「木育(もくいく)」?

「いまの子ども達はデジタルなおもちゃに囲まれています。そして、人と関わるアナログな遊びをする機会がとて減ってしまいました。刃物も知恵も言葉も道具です。その使い方を理解するには、アナログな体験が必要です。木と触れあう原体験はとても重要ではないでしょうか。」(福島講師 談)

村山総合支庁では、木育指導者の育成のため、共育工房IPPO・ぎふ木育推進員の福島計一氏をお迎えし、「木育インストラクター養成講座」を開催しました。

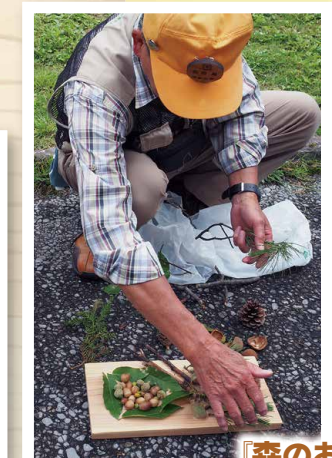
なぜ、今の時代に木育が必要なのか、木育の目的や考え方などについて伺い、実践編では「森のおままごと」を県民の森のフィールドに出て体験しました。

受講者はそれぞれ、木の実や葉っぱなどの自然物を食べ物に見立て、豪華で美味しそうなおままごとを作りながら、プレゼンテーションの手法を楽しく学びました。



村山総合支庁では、H29年度から「むらやま版・木育推進協議会」を設置し、木育プログラムの開発を行い、職員出前講座「やってみよう!木育」により木育を推進しています。

今後は、今回の養成講座の受講者を中心に、むらやま版・木育を推進する人材育成を進めるため、出前講座などの場を活用した実践研修のほか、木育指導者名簿を作成し、木育に取り組む幼稚園などの団体に情報を提供していきます。



「森のおままごと」プログラム

表紙の写真は、むらさざわ児童クラブと一緒に活動した「輪切りに挑戦!コマをつくらう」の様子です。

県では、やまがた木育推進方針を策定し、「やまがた木育」の推進に取り組んでいます。